

# インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム 実証実験 実施結果

## 開催概要

|                  |                                                                                                                                                          |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時              | 令和4年8月8日（水）13：00～15：00                                                                                                                                   |
| 場 所              | 和歌山県和歌山市山東中50-1番地先（永山川）                                                                                                                                  |
| 参 加 者            | 施設管理者：7名（和歌山市）<br>実験実施者：1名（サンユレック（株））<br>事務局：2名（国土政策研究会）<br>国土交通省：3名（近畿地方整備局）<br>メンター：1名（近畿情報ワーキング長）<br><div style="text-align: right;">出席者合計 14 名</div> |
| [施設管理者]<br>ニーズ   | [施設管理者：和歌山県和歌山市]<br>求める技術：水路の水を止めずに、地元業者や職員でも簡単に施工できる技術                                                                                                  |
| [実験実施者]<br>シーズ技術 | ・サンユレック（株）<br>「エポキシ樹脂を使用した水路クラックの簡易補修技術」                                                                                                                 |

※新型コロナウイルス対策のため、施設管理者・実証実験実施者・事務局のみで実証実験を実施。

## シーズ技術の概要

- コンクリート用水中硬化型エポキシ樹脂（粘土型・A剤：250g/袋 B剤：250g/袋）を使用し、水路クラックの簡易補修技術の実証実験を行った。

- ① ブラシ等で施工したい部位を清掃する。（接着性を阻害する付着物を除去する。）



- ② ゴム手袋を着用し、2種類のエポキシ樹脂を手で練り合わせる。（配合比＝1：1）



③色が均一に混じり合ったら、施工したい部位に詰める。(接着面になじむ様に擦り付ける。)



⑤施工完了。(水中でも硬化が可能)



施工前の漏水箇所



施工後の様子

## 実 施 状 況



技術の概要説明



実験地(永山川)



職員が体験する様子1



職員が体験する様子2

## 【施設管理者 感想・講評：和歌山市】

(感想)

- ・思ったよりも硬くなく、練りやすかった。女性でも負担が少なく、施工がしやすかった。
- ・今までモルタルを用いて水中で苦勞しながら施工をしていたので、耐久性は要確認だが、施工はし易いと感じた。
- ・水路なので、かんがい期でも作業出来るのがメリットであると感じた。



(講評)

- ・本日は暑い中、永山川での実証実験を実施していただき感謝している。本実験は、従来の修繕方法と比較して、経済的で水中での施工が可能で、さらにはその施工が容易であるかを確認した。
- ・経済面では、従来は必須であった水替え工が不要なため、総合的に経済性が高いと期待している。
- ・今回の実験箇所は、水中の護岸クラックで、従来は職員での対応が困難な場所であった。今回の実証実験で、水中での施工を観察したが、材料の分離はなく、クラックに密着していることが確認出来た。また、材料の練り上げから施工まで少人数で対応出来ていた。職員数が限られている中、必要人数の少なさは重要である。
- ・耐久性については、引き続き河川パトロールを実施して確認していきたい。



---

## 【近畿情報ワーキング長：坂野 昌弘 先生の総評】

---

- ・和歌山市さん、サンユレックさん、近畿地方整備局さん、本日はありがとうございました。
- ・今回は、過去に例を見ないほど積極的な質疑応答がなされた。普段の実証実験では、シーズ側が主体となって作業することが多いが、今回はほとんどニーズ側の職員が作業を行い、非常に中身の濃いマッチングイベントとなった。
- ・やはり実証実験は良い。解析や実験室等では設定した条件通りにしか答えが出ないが、現場では予想通りにならないことが多い。見た目は小さいクラックでも意外と奥行きがあったり、現場で試してみることで見えてくるものがある。現場を提供していただいたことで、シーズ企業としても様々な検討課題が見えてくる。こういうマッチングを引き続き行っていきたい。
- ・耐久性に関する質疑もあったので、引き続き経過観察をお願いしたい。
- ・本日は暑い中ありがとうございました。

